第１３９回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月６日提出）

１．題　目：教育革新シンポジウム「クォーター制による教育改善」

２．日　時：平成 28 年 8 月 24 日（水）　13:00～16:15

３．場　所：文教スカイホール（グローバル教育・学生支援棟４階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
　[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
　[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
　[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
　[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　クォーター制への変更は，グローバル化に伴う学生の留学促進のためだけではなく，単位の実質化や学習の深化といった教育改善の視点や教員の研究時間の確保など，様々な効果があると言われています。先日開催された「国立大学教養教育実施組織会議分科会」でも，各大学，グローバル化という観点からのクォーター制移行という考え方から，教育効果の向上への期待というものに変わっていっているような状況でした。学事歴がただ単にクォーター制となっては，あまり意味がなく，教育効果の観点からすると，シラバスの見直しも含め，授業設計や方法の再検討なども必要となってきます。
　本シンポジウムでは，大学教育におけるクォーター制導入の効果などについて，大阪大学高等教育・入試研究開発センターのセンター長であられる，川嶋太津夫氏をお招きしてご講演いただくとともに，他大学の事例報告を通して，本学におけるクォーター制導入の参考にしていきます。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【第１部】

13:00～13:10　開会の挨拶　　長崎大学理事（教学担当）　松坂　誠應
13:10～14:10　基調講演「学事暦改革と教育改善」
▶ 大阪大学　高等教育・入試研究開発センター　センター長
川嶋　太津夫　氏
14:10～14:20　質疑・討論
14:20～14:30　休憩
【第２部】
14:30～14:50　事例報告１
「広島大学のクォーター制導入状況」
▶ 広島大学　大学院教育学研究科教授（前教育担当理事・副学長）
坂越　正樹　氏
14:50～15:00　質疑・応答
15:00～15:20　事例報告２
「岡山大学におけるクォーター制等の導入・実施状況」
▶ 岡山大学　全学教育・学生支援機構　副機構長
佐々木　健二　氏
15:20～15:30　質疑・応答
15:30～15:50　事例報告３
「千葉大学の教育改革と６ターム制」
▶ 千葉大学　副学長（教育改革），国際教養学部長，全学教育センター長
小澤　弘明　氏
15:50～16:00　質疑・応答
16:00～16:05　閉会の挨拶　　長崎大学･大学教育イノベーションセンター　若菜啓孝
16:05～16:15　フィードバックシート記入

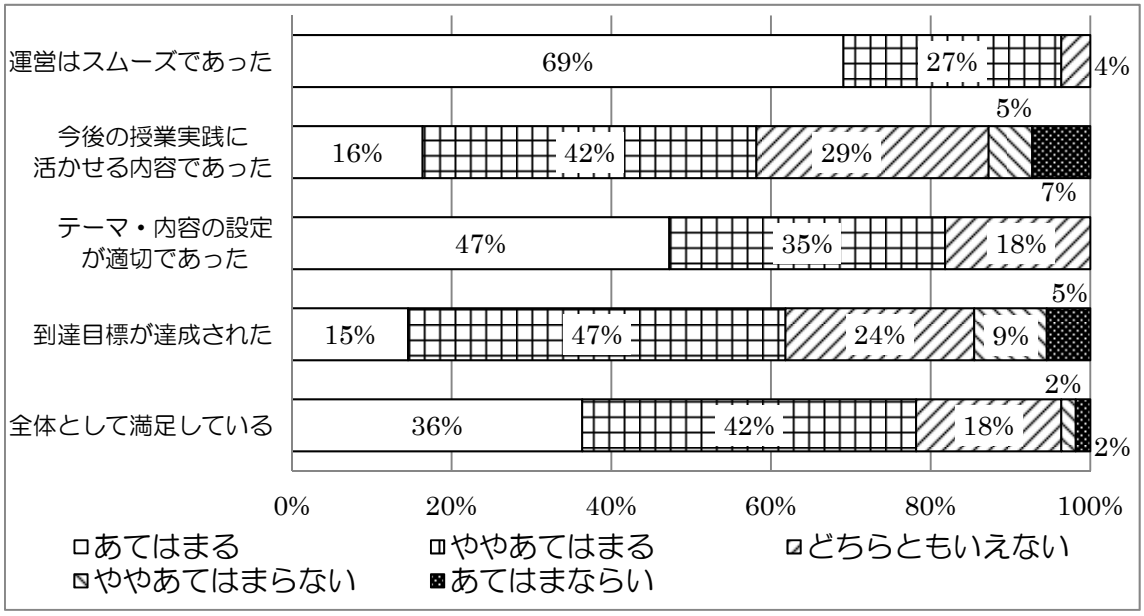
９．参加者：６９名（受講証発行対象者：６６（途中参加１名，学外２名を除く）
（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 多文化社会学部 | 1 |
| 教育学部 | 6 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 4 |
| 医学部 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（歯系） | 4 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 3 |

| | |
|---|---|
| 医歯薬学総合研究科ハイブリッド医療人養成センター | 1 |
| 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 | 1 |
| 熱帯医学研究所 | 1 |
| 病院 | 1 |
| 工学研究科 | 10 |
| 水産・環境科学総合研究科（環境） | 10 |
| 水産・環境科学総合研究科（水産） | 1 |
| 産学官連携戦略本部 | 1 |
| 国際教育リエゾン機構 | 5 |
| 大学教育イノベーションセンター | 1 |
| 言語教育研究センター | 2 |
| 文教地区事務部 | 2 |
| 医歯薬学総合研究科事務部 | 1 |
| 学生支援部 | 7 |
| 非常勤講師 | 1 |
| 学外 | 2 |
| 計 | 69 |

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（回答者：55 名）



● 今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

＜第１回基調講演のみ参加者＞

- 大変勉強になりました。教務委員として今後に役立てたいと思います。
- 大阪大学の現状がわかり，大変ためになりました。
- 医学部に関してはカリキュラムが非常に混みっています。認証評価も控えており，クォーター制への対応はすこし難しいのではないかと感じました。
- 講演時間がすこし短かった。もう少し聞きたかった。
- クォーター制度導入に伴う諸課題については，長崎大学が教養教教育に導入する際に出された諸課題や意見等とほぼ同じ出るように感じた。外国語の場合の非常勤確保，受講者のタームを通じての継続的な履修，第１タームと第２タームの成績処理，履修登録，タームに授業がない学生の授業料の支払い方法等を考えれば，まずはできる所から始めるというのが現実的であるように感じた。
- 全教員対象というよりも，上位職種の教員対象という内容であった。
- 医歯薬学部については独自カリキュラムで講義が進行するとのことでしたが，クォーター制導入における教育改善の一例をお示ししていただけたらよかったと思います。
- クォーター制について理解できたが，実施にあたり困難な点も存在することがわかった。
- 阪大の複数の教員と研究会等で親しく話す機会がありますが，彼らに見えている現実およびそれに関する解釈と，教育テクノクラート部門の教員が構築しようとしている現実ではずいぶん大きな開きがあることを実感しました。阪大の教員たちの大部分は４学期制を実質的に２学期制として運営することが結局はいちばん教育効果が上がるという点で一致していました。
- クォーター制に関して，どの大学でも似ている問題を抱えているようなので，問題を解決した事例の紹介があればもっとよかったと思う。
- 長崎大学の今後の方針についてのアナウンスが多少なりともスライド提示してほしかった。
- クォーター制について，アメリカとの比較，歴史的な背景を含め，とても勉強になりました。
- 医歯薬学総合研究科より参加致しました。本科は移行しないとのことでしたが，たいへん参考になるご講演でした。ありがとうございました。
- 内容は興味深かった。医歯薬のような資格免許の学部への導入は難しいこともわかった。
- 内容のバランスが整ったプログラムであったと思います。
- 第１部に限って言えば，大阪大学はかなり進んだ取り組みをされているとの期待が大きかっただけに，期待外れの感があった。質問に対する回答も，ほとんどが検討中のものであったように思われる。もう少し，具体的な内容を回答して欲しかった。

・　医学部においてはセメスター制の方が適しており，クォーター制の導入で今後問題が生じてくることが懸念されることがよくわかった。そのための対策を今からしておく必要があるという危機感を持つことができたことは収穫であったと思う。
（以上教育職員）

＜第 2 部事例報告のみ参加者＞

・　今回の内容は学部の違いが大きいため学部ごとの FD を希望します。
・　長崎大学，自身の現状をシェアしないと活かしきれない気がした。
・　各大学における取り組みの結果，留学やボランティアの参加者数がどれくらい変化したのかなど，取り組みの成果となるようなデータが見れればと思いました。
・　タイムリーな内容で良かった。今回は各大学の執行部の方々からのご発表で，各大学の基本方針はよく理解できたが，実際の現場の学生，事務職員，教員からのポジティブ，ネガティブな意見等を中心に紹介して貰えば，より有意義なプログラムになったと思います。本学もクウォーター制への全面移行の方針かと思いますが，現状のように移行可能な科目から，改善しながら一歩ずつ進んでいくべきと思います。
・　本学も無理のないクォーター制に移行している状況を理解できました。（以上教育職員）

＜第 1 部・2 部参加者＞

・　報告者間で調整をおこない，重複する内容はできるだけ省いて欲しかった。
・　多様な方法を取り入れている国立大学の現状がよく理解できました。ただ，私立大学の取り組み等が気にかかりました。また，あまりクォーター制がうまく機能していないような印象を受けました。
・　クォーター制は，出来るところから行うのが現実的であることが，他大学の例からよくわかった。
・　全体像を把握することができた。クォーター制，60 分講義などが，どのように教室外の自習時間の確保につながるかは見えなかった。修士課程でのメリットデメリットについての理解は，こちらの基礎知識不足も影響してあまり見えなかった。
・　専門科目（免許取得や指定規則などの縛りがある教育課程）や大学院での適用については，これからという印象であった。ここを聞いてみたかった。
・　実際に先行運営された事例を伺うことが出来，上がってくる問題点が我々が悩んでいるところに非常に類似しており，当方にとっても参考になること大であった。今回は教養教育または 4 年制学部に想起される事例が中心であったが，そのほとんどが必修科目である医歯薬系学部に関して，どのように移行していくと良いのか？この辺の事例も伺いたいと思った次第である。また，専門科目における医歯薬共修授業の取りまとめや，もし 60 分授業に移行した際，教授内容の質保証をどのように取っていくのか（一部話題に上がってはいたが）等について，論点，疑問点を整理することが出来，有意義なシンポジウムであった。
・　外国語に関しての具体的な進捗状況をもっと知りたいと思いました。

- 当日配布の資料を当日の朝でも良いので事前に確認できると良いかなと思いました
- 事例報告にもう少し時間を割いて欲しかった。もっと詳しく話を聞きたかったです。
- 大変，参考になりました。
- 基調講演もタメになったが，各大学の事例紹介に割く時間をもっと増やし，具体的な講義内容の事例を紹介していただきたかったです。
- やはり，留学に関係のない，大多数の学生へのメリットは見いだせなかった。
- クォーター制に関する長崎大学の取り組みや実状の説明が最初にあった方がよかったと思った。（長崎大学教員にも詳細はあまり知られていないと思う。）
- 各大学の特徴がよくわかった。
- 他大学のクォーター制の取り組みがわかり，今後のクォーター制の内容について参考となった。
- 勿論，他大学の事例は参考になりました。ただ，長崎大学がいまどういう制度設計を行おうとしているか，この点に一切触れられていなかったため，正直，今日の内容がどこまで自身の今後と関係があるかは分からないし，無関係の可能性もあると思いました。せめて，他大学の事例を踏まえて，長崎大学が取り入れようとしている枠組みのメリット，デメリットを提示して頂きたかったです。
- 講師の方々の話から，クォーター制以降のメリットが見えなかった。移行する必要があるのかゼロベースで見直すべきである。
- クォーター制導入の手法を俯瞰させて頂き，実像が理解できたと思います。部局内では，関連委員会委員の先生方を通じての「疑問のお立場に立った」ご説明以外に改革の経緯・意味を懇切丁寧にご教示下さる方がおられませんでしたので，このような直接的なシンポジウムに参加させて頂き感謝申し上げます。
- 文科省からお金がとれている大学の話ばかりであったことが気になります。やはり，岡山大学の勢いはすごいです。（以上教育職員）
- 会場が寒すぎです。第２部の途中で少し休憩を取られたらよかったのでは。
- 広島大，岡山大について，特に興味深く参考になりました。
- フィードバックシートの WEB 回答が少ないのではないかと危惧します。これが当たり前の状況になるまでの間（参加者に浸透するまでの間）は希望者にペーパーベースで手渡しても良いのでは無いかと考えます。今回の回収率の結果を見てからの検討になると思います。また，受講証の発行条件としてフィードバックシート提出を義務付けることも一案ではないでしょうか。
- 各大学のクォーター制導入までの経緯や導入後の課題，問題点等についての説明時間を，３０分程度確保したほうがよかったように思う。
- クォーター制は実施する上でたくさんの課題を含んでいると思います。今後もこのような企画をお願いいたします。（以上事務職員）

● 長崎大学FDとしてとりあげるテーマ･内容についてご意見･ご要望をご記入下さい。

＜第1回基調講演のみ参加者＞

・ クォーター制とカリキュラムについて引き続きとりあげてほしい。
・ 全教員が対象となる，授業の構成法など。
・ 戦後日本の教育学は教育の質の向上に貢献したのか？エビデンスとその解釈。
・ テーマ・内容に付いては思い浮かばない。ただし，どういう内容であれ，文教のみでの開催，坂本のみでの開催は避けて頂きたい。教員のほとんどは時間に追われているので，自家用車を持たない者は，文教－坂本間をタクシーで往復しなければならない。今の時代，ネット中継などで同日同一内容を文教 ・坂本両方で開催することぐらいは可能なのではないだろうか？
・ 研究推進関連を希望致します。
・ 教育論や行動科学のような分野の基礎的な話，精神的に問題のある学生や攻撃的な学生の心理的メカニズムや対応。
・ 大学教育のグローバル展開戦略（以上教育職員）

＜第2部事例報告のみ参加者＞

・ 長崎大学でクォーター制の授業を実施した先生方に，課題やメリットを報告いただきたい。
・ 先行事例の情報を入手し，大変満足を致しました。（以上事務職員）

＜第1部・2部参加者＞

・ 基本的には，何らかの成果を上げた教育改革やまた失敗をした事例を学びたい。
・ 3ポリシーの整備・策定について
・ 今回のようなカリキュラム改革に関わる内容は非常に興味あるところで，さらには，医歯薬系，または特定の学部を想定した，カリキュラム策定のワークショップがあれば興味深いところである。
・ 今後も，今回のテーマで，いろいろな大学の進捗状況をFDで取り上げていただけたらと思います。
・ どうやって研究時間を捻出するのか？学生の効果的な就活支援はどうすれば良いのか？
・ アクティブラーニングの手法と具体的な実践事例の紹介。
・ 授業評価が高い先生や授業が上手な先生による公開授業（理系関係）。理系の大学入試問題作成の講習会。（一般的理念や概念ではなく具体的なノウハウ）
・ クォーター制に関することとして，反転授業的要素もあるかと思います。そうすると学生への教材提示が課題の一つになるものと思います。クォーター制に伴い教材作成のポイントや中間評価視点について取り上げて頂ければと思います。
（以上教育職員）
・３ポリシー，入試改革と学士課程教育，地域創生など（事務職員）

総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

＜第１部＞

教育改革と国際化を目指したクォーター制の導入について，全体的説明と，大阪大学での事例を川嶋太津夫氏に紹介いただき，その後，広島大学，岡山大学，千葉大学の事例を学んだ。どこもスーパーグローバル大学としてクォーター制の導入に取り組んでおり，大阪大学では平成29年度から導入予定とのことである。ただし，全学共通科目と専門科目の調整が難しかったり，学部によっては導入できないところができたりなど，課題も多いことが判明し，大学全体としての一斉導入は難しいと感じた。長崎大学としての全体の方針を決定し，各部局がなるべくそれに合わせる工夫が必要だと感じた。大学院では，クォーター制の導入は比較的簡単かもしれないが，学部ごとに解決すべき問題があることも判明し，できるところから順次変革していくことが，現実的だと感じた。

参加者はクォーター制について理解を深めることができたと感じた。

（文責　門司）

＜第２部＞

第２部は，広島大学，岡山大学，千葉大学におけるクォーター制導入の経緯と現状について報告いただいた。各大学とも設置形態や大学の規模も似ており，本学に役に立つ内容であった。特に，いずれの大学でも課題として挙げられていたのが，カリキュラムの編成，授業日程の確保，学費等の問題であった。フィードバックからは，本学の現状やこれからの方針に関する説明がなかった分，生かしきれないという意見があった。このほか，学部の違いが大きいため学部ごとのFDを希望するという意見や，重複する課題や内容があったため，各大学の制度面の説明だけでなく，クォーター制の授業の設計方法や，学生，教職員からの意見，留学の実績等も知りたいという意見が寄せられた。シンポジウムでは活発な意見交換がなされ，第１部同様，クォーター制についての理解を深めることができたと感じた。

（文責　川越）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應

e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp

電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班

主査　寺川 美穂

e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp

電　話：内線2077